

AICHI STEEL

つくろう、未来を。
つくろう、素材で。

愛知製鋼グループ

2027年3月期 中間期 決算説明会

2026年10月30日

愛知製鋼株式会社
取締役副社長 石井直生



- ① 2027年3月期 中間期 決算内容
- ② 2027年3月期 通期見通し

① 2027年3月期 中間期 決算内容

✓ 前年同期比 減益、既公表値比 増益

② 2027年3月期 通期見通し

✓ 利益下方修正 および期末減配

- ① 2027年3月期 中間期 決算内容
- ② 2027年3月期 通期見通し

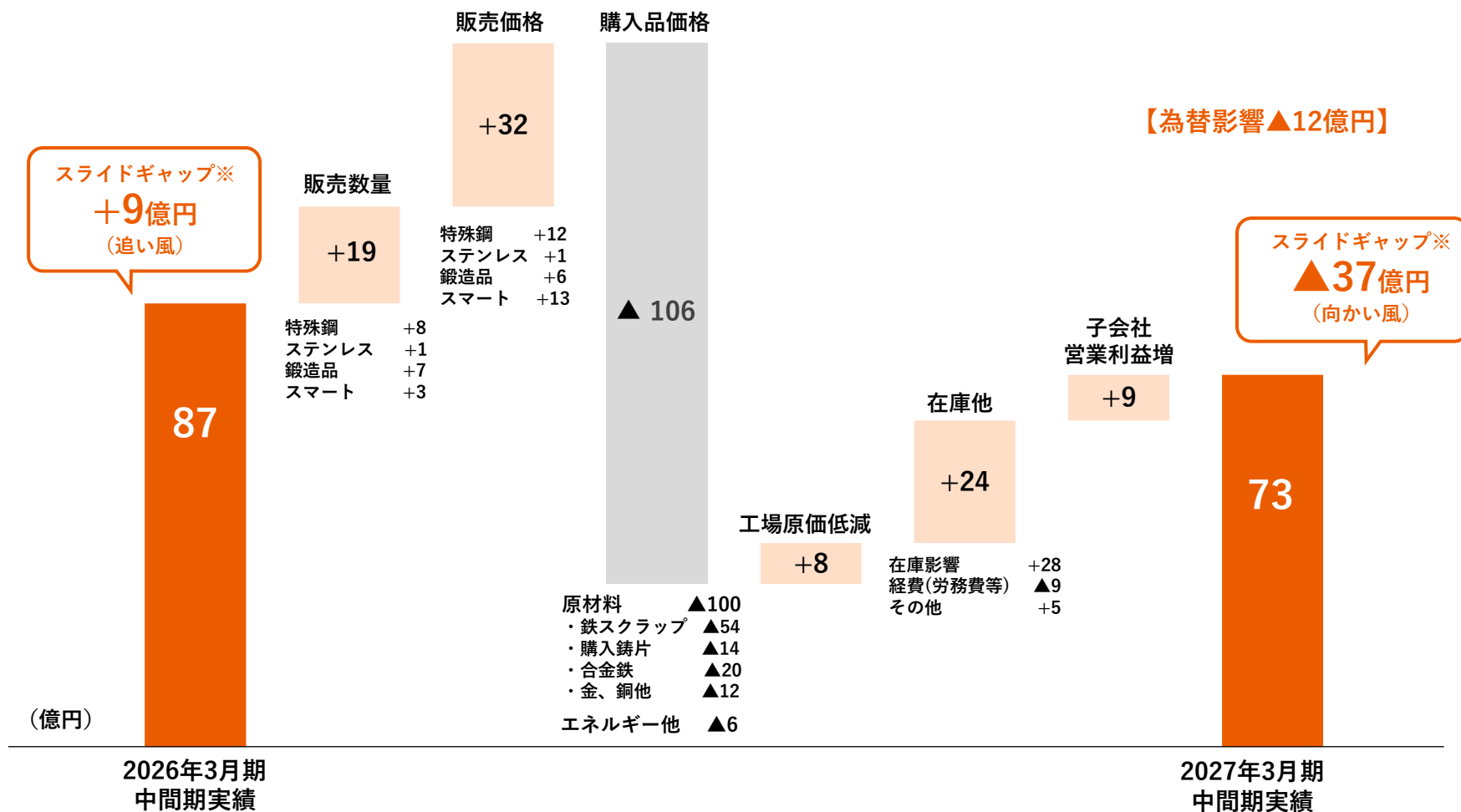
前年同期比増収減益、売上収益は中間期としては過去最高

(億円)

		2026年 3月期中間期	2027年 3月期中間期	増減	増減率	既公表値 (7/31)	増減
連結	売上収益	1,498	1,625 (過去最高)	+127	+9%	1,519	+106
	営業利益	87	73	▲14	▲16%	60	+13
	親会社の所有者に 帰属する当期利益	56	(*)52	▲4	▲5%	40	+12
単独	売上数量 (千 t)	481	506	+25	+5%	519	▲13

(*) バルドマン社の持分法による投資損益3.5億円を含む

販売数量増加や販売価格の値上がりなどの増益要因はあったものの、
購入品価格の値上がりにより前年同期比減益



※サーチャージ制を導入しているお客様に対して、購入品価格の変動の反映が翌半期、または翌四半期となるために発生する購入品価格と売価前提の価格差のこと

鋼カンパニー：増収、減益

ステンレスカンパニー：増収、増益

鍛カンパニー：増収、増益

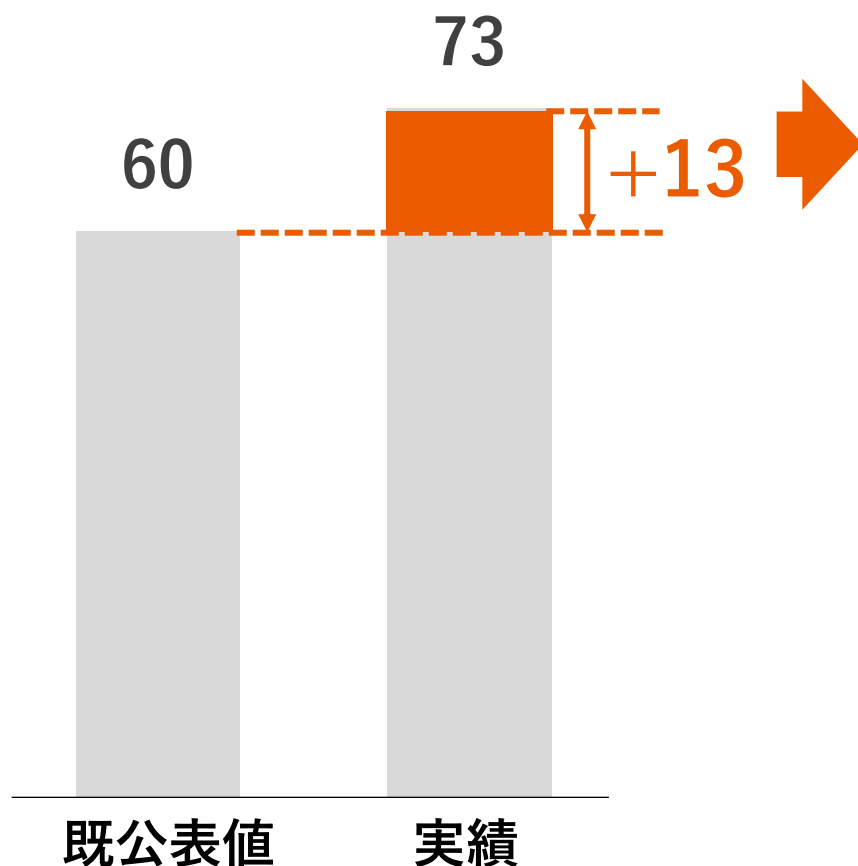
スマートカンパニー：増収、増益

(億円)

	売上収益			営業利益				
	2026年 3月期中間期	2027年 3月期中間期	増減	2026年 3月期中間期	営業 利益率	2027年 3月期中間期	営業 利益率	増減
鋼カンパニー	516	552	+36	38	7.4%	10	2.0%	▲28
ステンレス カンパニー	194	207	+13	4	2.1%	4	2.2%	+0
鍛カンパニー	666	722	+56	32	4.9%	44	6.1%	+12
スマート カンパニー	108	130	+22	9	9.1%	11	8.6%	+2
その他	11	13	+2	2	24.2%	2	18.4%	▲0
合計	1,498	1,625	+127	87	5.9%	73	4.5%	▲14

営業面のプラスや、工場原価低減などが寄与

既公表値比営業利益比較（億円）

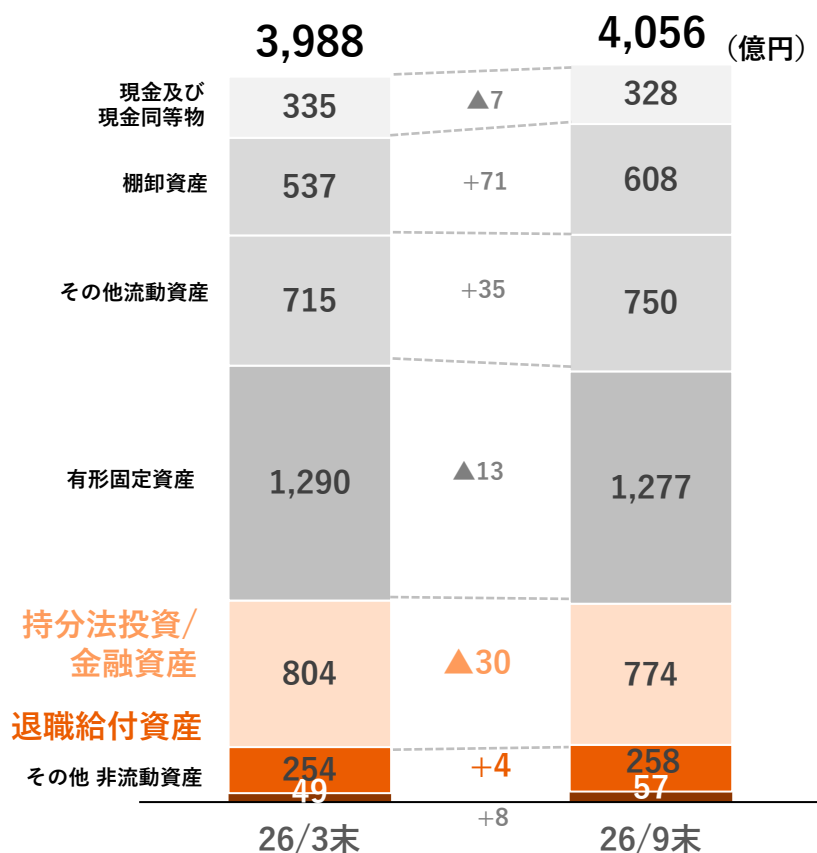


項目	差異	差異の要因
営業面のプラス	+27	数量構成、価格面のプラスなど
購入品価格	▲37	鉄スクラップの値上がりなど
在庫・原価 他	+18	工場原価低減、物流改善
連結子会社	+5	海外子会社の業績上振れ
合計	+13	

保有株式の売却と成長投資・株主還元で引き続き資産効率の向上に取り組む

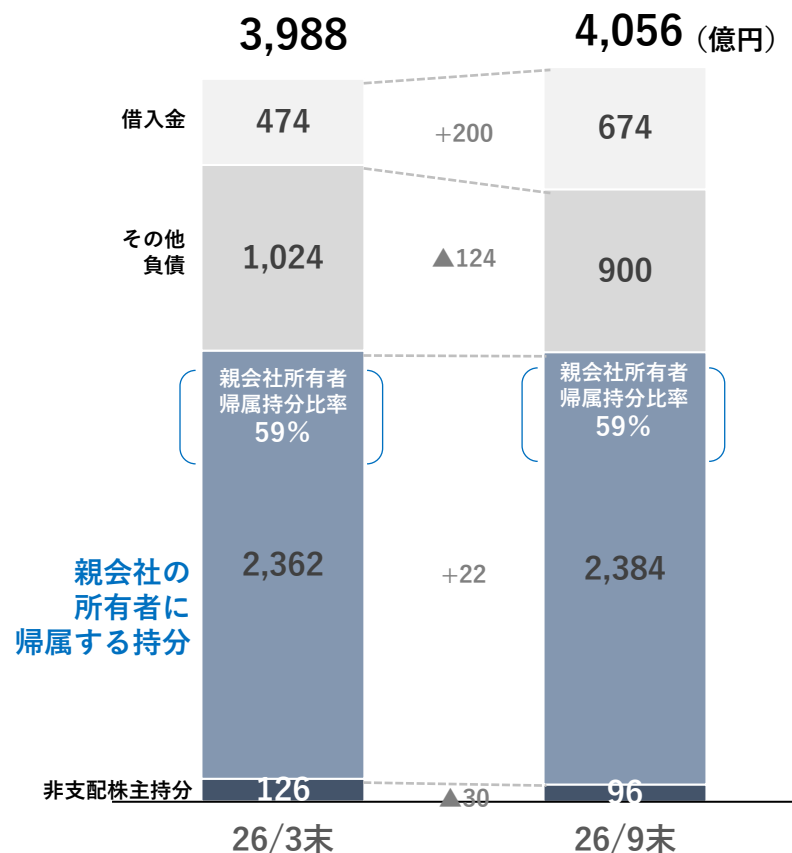
資産

資産：運転資産増加も株式売却で概ね横ばい



資本

特別配当により親会社所有持分は概ね横ばい



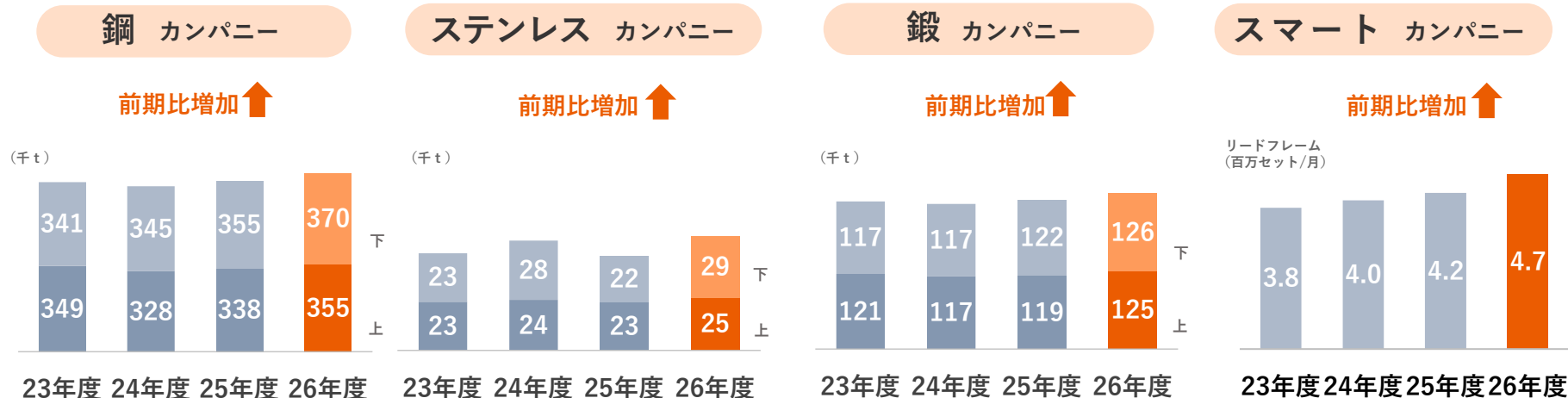
- ① 2027年3月期 中間期 決算内容
- ② 2027年3月期 通期見通し

上期は上振れとなったものの、下期は購入品価格の更なる値上がりが見込まれるため、通期業績予想は営業利益：150億円、当期利益：100億円に下方修正

(億円)

		2026年 3月期	2027年 3月期	増減	増減率	既公表値 (7/31)	増減
連結	売上収益	3,043	3,300	+257	+8%	3,100	+200
	営業利益	173	150	▲23	▲14%	175	▲25
	親会社の所有者に 帰属する当期利益	112	100	▲12	▲11%	113	▲13
単独	売上数量 (千 t)	980	1,030	+50	+5%	1,022	+8

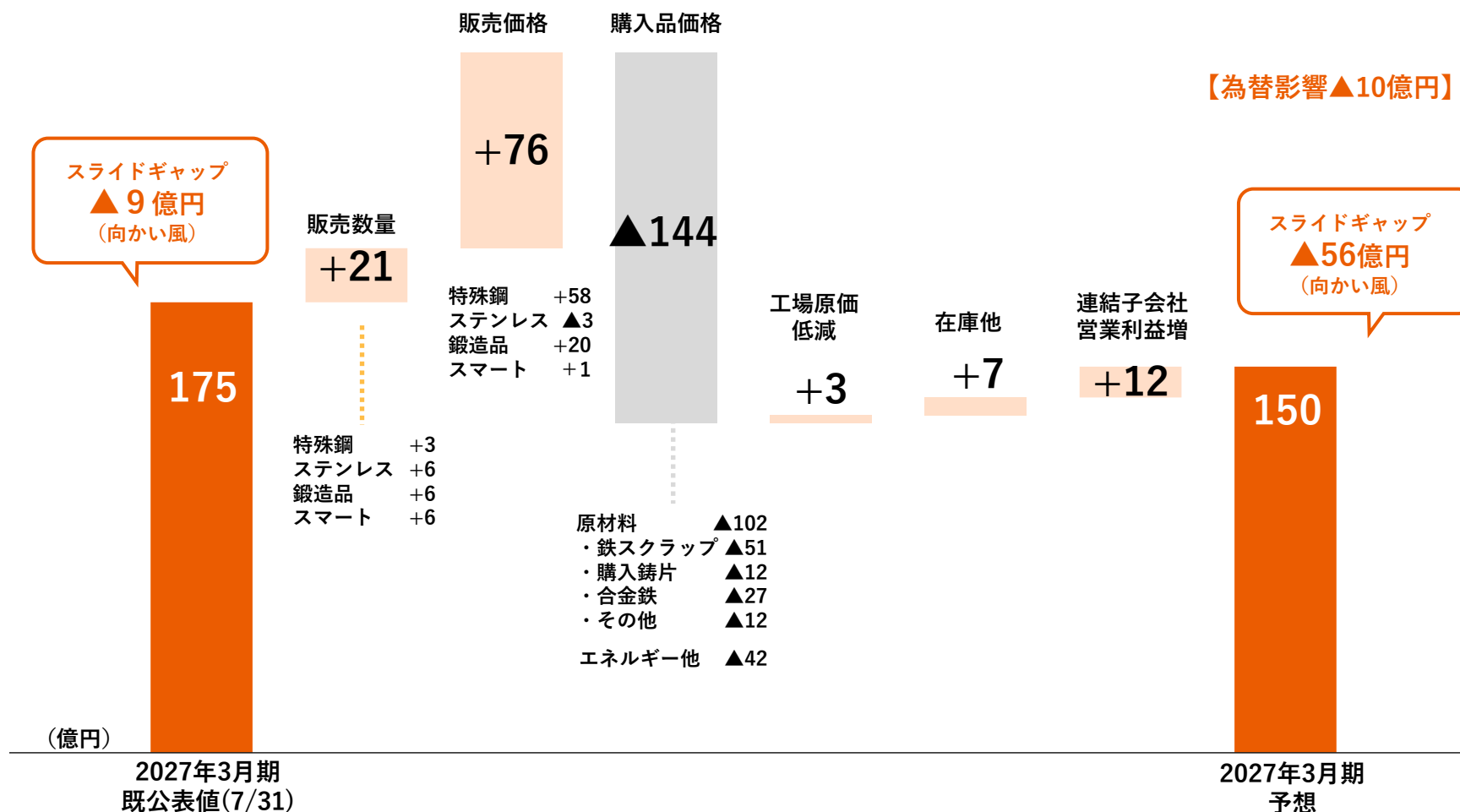
■ 販売数量（単独）



■ 購入品価格

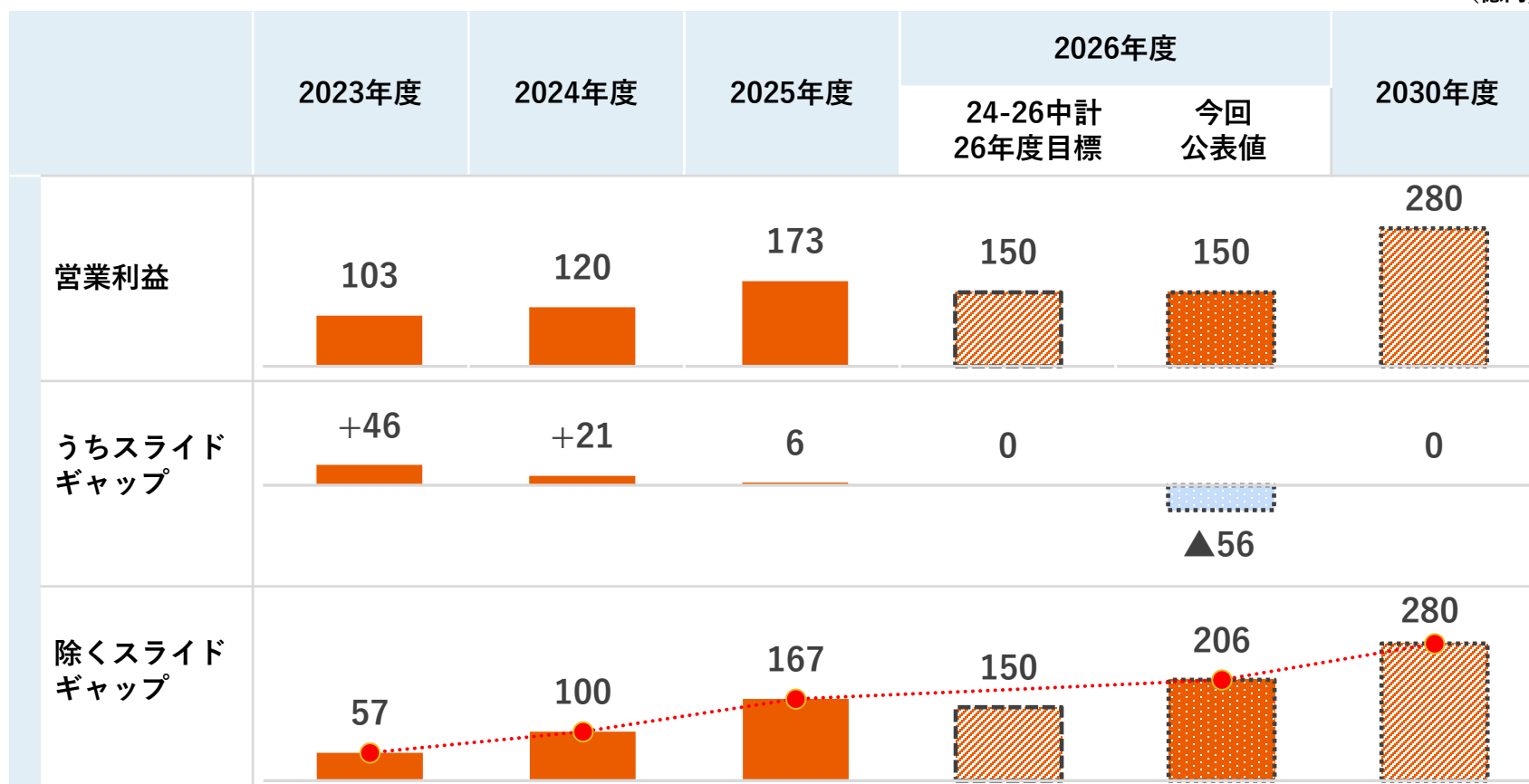
	26年度	参考
鉄スクラップ価格H2（円/kg）	26年上：48.4 / 26年下：48.9	25年上：37.6 / 25年下：40.4
購入鋳片	前期比、既公表値比ともに値上がり	原材料価格の強含み
エネルギー	〃	電力・ガスとも値上がり
合金鉄	〃	主要合金鉄 全品目値上がり (モリブデン、バナジウム、ステンレス屑、ニッケル、クロム)
為替（USD）	上期159円 下期160円	25年度151円

上期は公表値を上回る利益を確保したものの、下期は購入品価格の高止まり影響が大きく、既公表値比減益を見込む。



- ・ スライドギャップ50億円超が、2026年度減益の主要因。
- ・ 売り・つくり・買いの実力向上は順調に進捗しているため、2030年度営業利益280億円の達成に向け、引き続き全社一丸となって取り組む。

(億円)

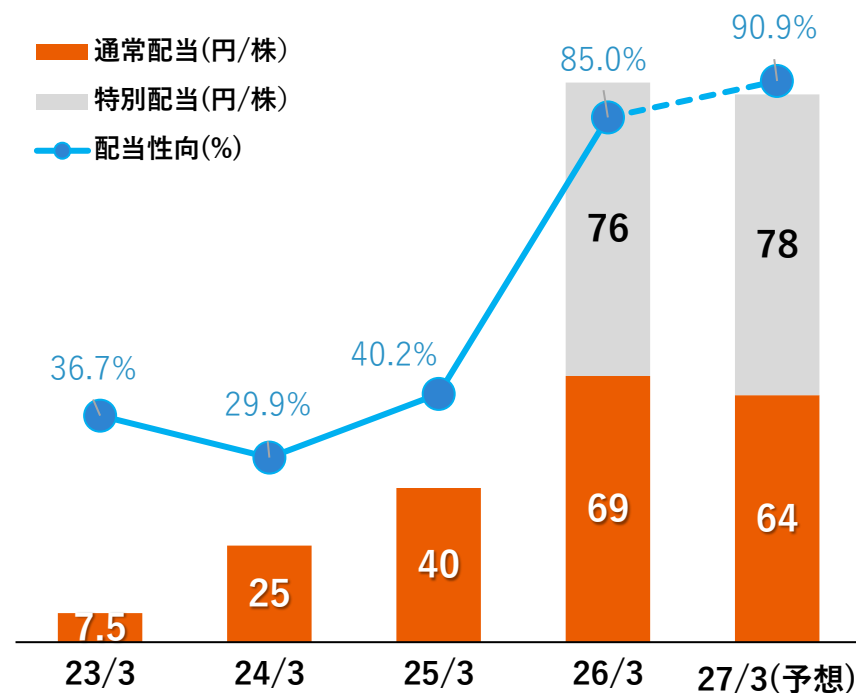


業績の下方修正を踏まえ、通常配当を1株当たり通期72円→64円へ減配、
特別配当と合わせ、通期142円を予定

当期予想

		既公表値 (7/31)		今回		差異	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
	通常配当	36	72	36	64	—	▲8
	特別配当	39	78	39	78	—	—
配当金合計		75	150	75	142	—	▲8
配当性向(%)			85.0%		90.9%		+5.9%

過去からの推移



※2025年7月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。図表内全ての金額について、当該株式分割後の金額を記載しております。

インドでの鍛鋼一貫体制構築と技術・知見を活かした高い競争力で
事業拡大が順調に進展

- 鋼：Vardhman Special Steels Ltd.(以下 VSSL社)との
第3期技術支援契約を通じて支援拡充と連携強化
 - 製品レパートリー拡大・高度化
 - 日系自動車向け肌焼鋼（ギヤ用鋼）
 - 新工場含む設備導入・性能向上
 - 新加熱炉、3ロール圧延機など
 - 営業力強化（日系/地場メーカー）
- 鍛：VSSL社で高付加価値な鍛造品を製造し、
輸出も視野に日系やローカルメーカーへの
供給体制構築を開始
 - 26年5月：VSSL社と鍛造品の技術支援契約締結
 - 26年7月：VSSL社にて鍛造工場建設の起工式実施



VSSL社サチット社長(左)と後藤社長(右)

VSSL社を通じて、現地ニーズに対応した製品、供給体制づくりを
着実に推進

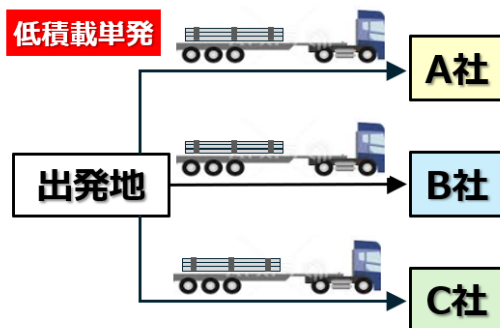
現地現物での改善活動で着実に成果。今後も対象拡大など、さらなる改善を継続

- 積み合わせ・巡回配送による積載率向上（実績: + 5 %）で物流負荷低減
- シミュレーション技術を活用し、制約条件を考慮して積載率と走行距離MINとなる物流ルートを自動生成

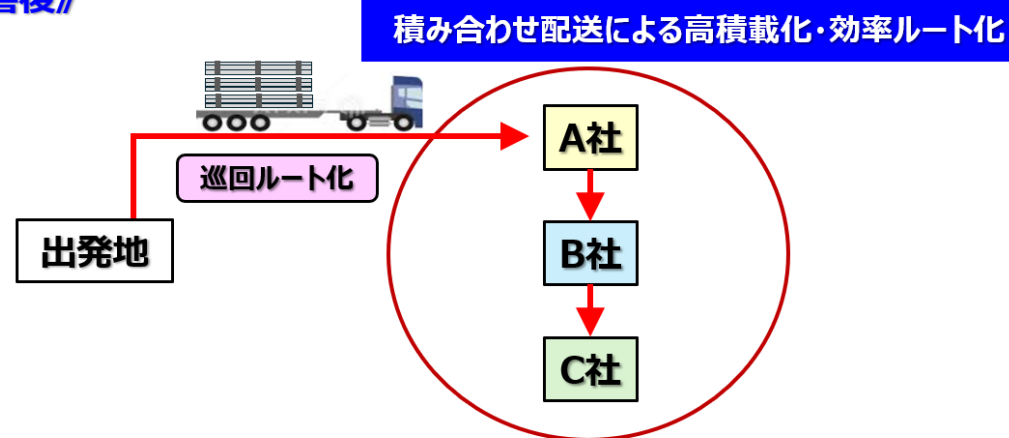
【対象】 全顧客

【ねらい】 CO2低減、トラックドライバー負荷低減とコスト低減

《従来》



《改善後》



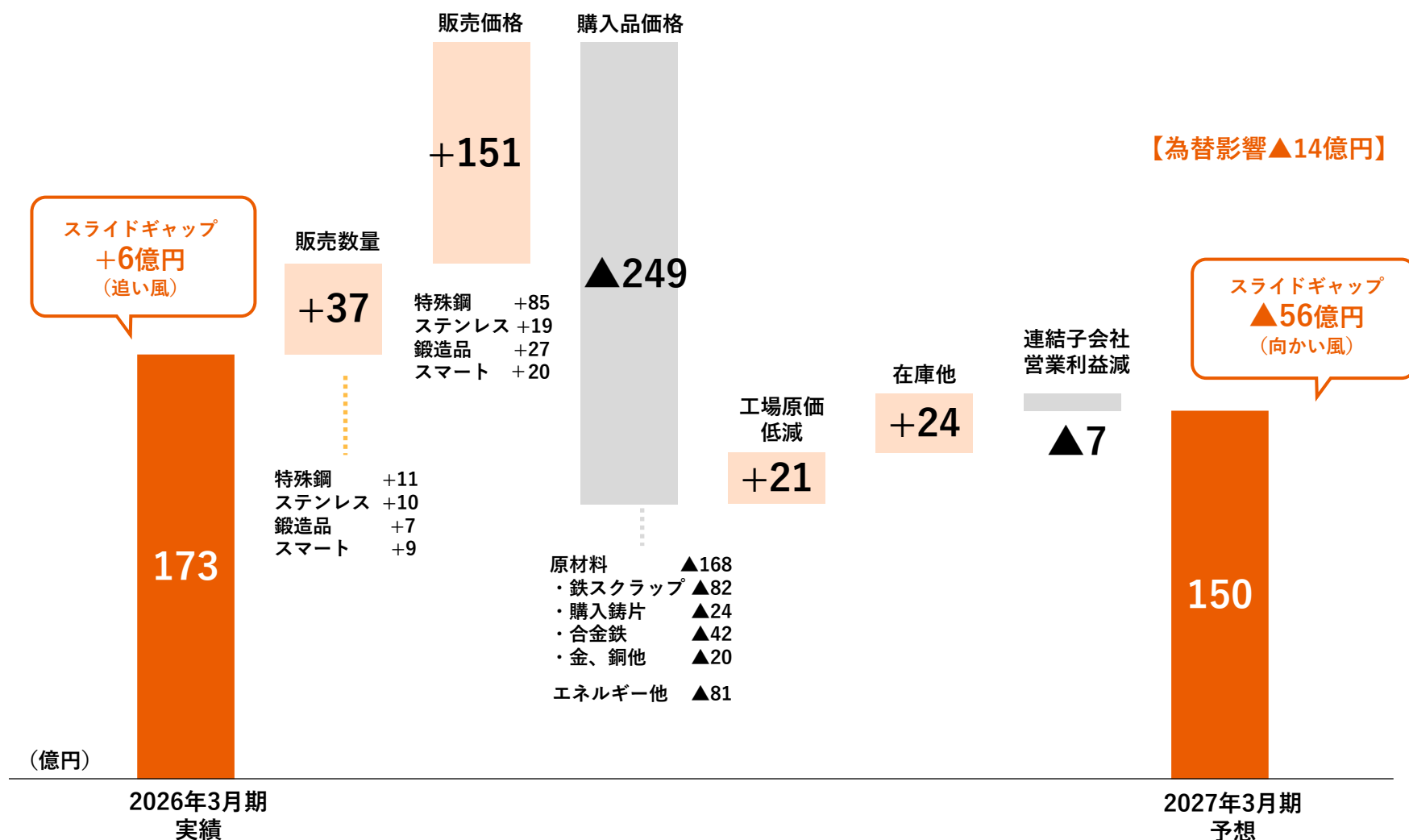
今後も、対象とする地域や製品の拡大により、更なる積載率向上を図る

Appendix

(億円)

	26年3月期 中間期 営業利益	販売 数量	販売 価格	購入品 価格	原価他	連結 子会社	27年3月期 中間期 営業利益	備考
鋼カンパニー	38	+8	+12	▲78	+28	+2	10	購入品価格の値上がりにより減益
ステンレス カンパニー	4	+1	+1	▲13	+10	+1	4	工場原価低減等により増益
鍛カンパニー	32	+7	+6	▲1	▲2	+2	44	販売数量の増加、 販売価格の値上がり により増益
スマート カンパニー	9	+3	+13	▲12	▲2	+0	11	販売数量の増加、 販売価格の値上がり により増益

販売数量の増加、販売価格の値上がりを見込むものの、購入品価格の値上がりを織り込み、前期比減益を予想



ありがとうございました

愛知製鋼株式会社は本資料もしくは本資料に含まれる情報、ないしはそれに関連して生じるものの利用、誤用あるいは配布から生じるいかなる損失に対して一切の責任を負いません。

本発表において使用した資料に記載されたいわゆる「見通し情報」は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。